

各務原市地域公共交通会議 (岐阜県各務原市)



コンパクト＋ネットワークを目指し、まちづくり施策との連携を図り、地域住民・交通事業者・行政の三位一体の取組により公共交通ネットワークを総合的・体系的に再構築。人口20万人未満の都市における交通・まちづくり連携のモデル事例。デマンドタクシーの複数事業者による運行は他地域展開が期待される。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

・平成25年より地域住民との対話を重視しふれあいバス等懇談会を毎年・継続的に開催 (R4:全11会場・90名参加)。事業者とも定期的な意見交換・情報共有の場を設け、運行計画の検討・調整を図るなど、地域住民、交通事業者、行政が三位一体となり取組を推進。

・名古屋鉄道のMaaSアプリ「CentX」でバスと観光施設がセットのデジタルチケットを造成。自治体と連携したデジタルチケット造成は名鉄グループ初。鉄道事業者及び観光施設と積極的に連携。

2. 創意工夫

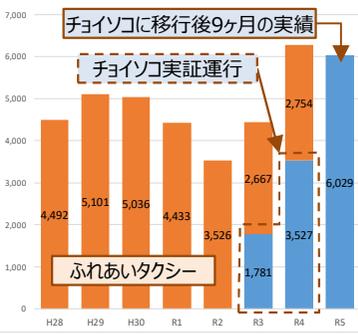
・利便性の低い長大路線となっていたふれあいバスについて、アンケートや懇談会における利用者の声を反映し、各地区の生活圏を意識したコンパクトな路線に再編 (H27.10)。利便性向上により利用者が増加 (H27→R4:利用者35%増、利用者あたり経費3%減)

- ・従前のふれあいタクシーの利便性向上のため、新たなデマンド交通チョイソコかかみがはらを導入。
- ・市交通部局と福祉部局が横連携し、高齢者等移動支援事業を創設。主体となる自治会が費用を補填し細かな移動需要にタクシー事業者の力を活用。郊外の団地など複数地区で事業実施。
- ・路線バス実証運行を支援する市の補助制度を活用し新設された岐阜バス「笠松川島線」について、高校進学後の利用に向け中学校へのチラシを配布する等、民間活力を生かした交通ネットワーク構築を支援。路線新設を促す初期投資期間への補助の後、沿線観光施設への利用も増えている。
- ・チョイソコのエリアスポンサーと連携したおでかけ促進イベントを月に1回開催、地域の事業者と積極的に連携。

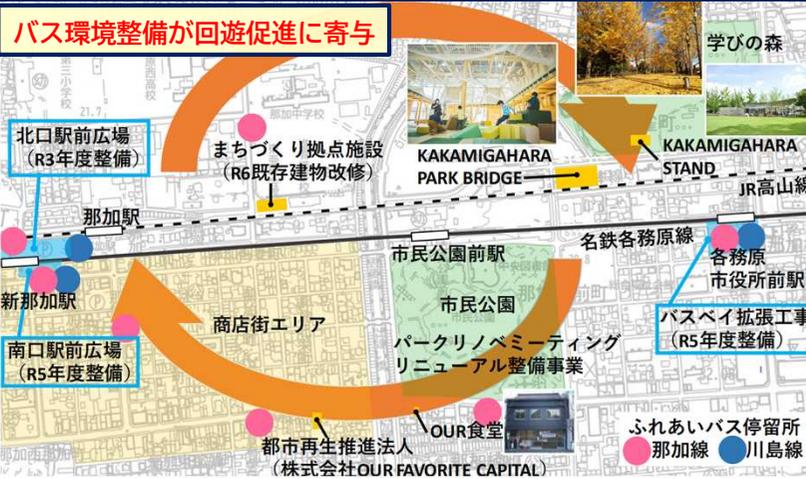
利用者数・一人当たり運行経費



チョイソコ・ふれあいタクシー 利用者数の推移



まちづくりと一体となった公共交通ネットワーク (那加地区)



3. 自立性・継続性

- ・立地適正化計画において、市全域における誘導施策として公共交通施策を具体的に位置づけ、まちづくりと公共交通施策の連携を強化。
- ・各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺における官民連携のまちづくり事業による新たな移動需要に対応するため、ふれあいバス那加線の増便・パターンダイヤ化などを実施 (R5.10月予定)。具体的なまちづくり事業と一体となった公共交通ネットワークを形成。新那加駅の駅前広場整備も交通結節点の利便性向上に貢献。
- ・チョイソコかかみがはらの導入にあたり、市内の全タクシー事業者へ丁寧な事業説明のうえ、競争性を確保しつつ複数事業者による「輪番制」の運行を採用。持続性の高い運行体制を実現。

各務原市地域公共交通会議 (岐阜県各務原市)

【鉄道】

JR高山本線 (4駅)
名鉄各務原線・犬山線 (12駅)

【民間バス路線】

岐阜バス・名鉄バス 11路線
(高速バス除く)

【乗用タクシー】

事業所 5社

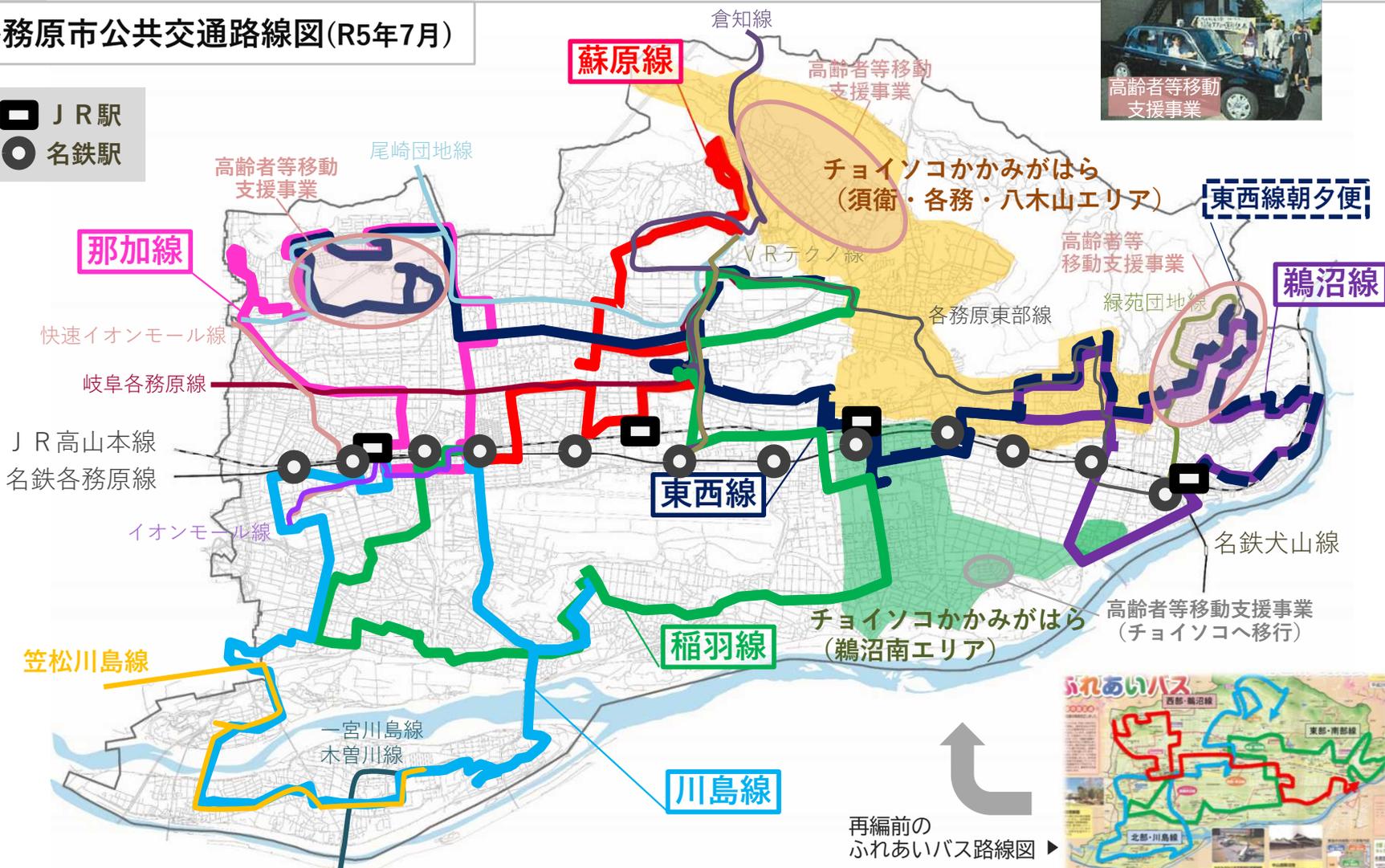
+ 民間公共交通を補完するサービスとして

【コミュニティバス等】

ふれあいバス 7路線
チョイソコ 2地区
このほか、「高齢者等移動支援事業」にて細かな移動需要にも対応



各務原市公共交通路線図(R5年7月)



再編前の
ふれあいバス路線図 ▶